

第2回 尼崎市生涯学習審議会 会議録要旨

日時	令和元年11月6日(水) 午後6時から午後8時30分まで
場所	尼崎市中央北生涯学習プラザ 1階学習室
出席委員	渥美委員、江田委員、大槻委員、鎌田委員、田井委員、田中委員、中平委員、久委員、松岡委員、松村委員

■議事内容

1 開会にあたって

ア チェックイン

イ 傍聴者の確認

傍聴者なし

ウ 会議録署名委員について

五十音順に鎌田委員と田井委員を指名した。

2 立花地域課及び園田地域課の取組(審議)

立花地域課と園田地域課から「令和元年度立花地域課の取組」及び「令和元年度園田地域課の取組」について説明を行った。

説明終了後、各テーブル内で意見や質問等について話し合い、各テーブルの代表者からの発言等があった。

○委員(テーブル代表)

立花は地域の特性が非常によく出ていると感じる。市民の主導でJA、農家、書店と結びついているのがいい。

園田はママカフェが少し弱いのではと感じる。ママカフェを支援したい親や独自で動いている所もあるので、子育て世帯を発見出来ているのかと疑問に思った。幼保連携や幼小連携を通じると、母親に集ってもらいやすく、ニコニコと話している姿を子供に見せることで子供も安心する上、子供内での年齢の壁を越えた交流も行うことができ、コミュニケーションが取れる。また、職員の事務量が増えているように見え、職員が地域に出ていく上で改善したほうがいい。また、地域で関係づくりを行う中で、団体の会長等と会っていることが多いようなので、もっと多様な人々と出会えるように地域に出ていくのが理想。立花で日本語教室がキャパオーバーのようであり、例えば子供の健診時等に日本語のコミュニケーションが必要な場合が多くあり、立花だけの問題ではないと思うが早く改善した方がいい。

○委員(補足)

私が子供の乳児健診のお手伝いをした際、日本語が分からない親が来ており、コミュニ

ケーションをとることが難しい上に、そういった人が健診の度に増えるのを目の当たりにしたので、何かしら支援が必要。様々な子育て世帯があるので、高齢者同様に子育て世帯にも継続的に支援できるものが必要。

○委員（テーブル代表）

私のテーブルで出た意見は主に、活動、プレゼン、キーパーソン、組織の体制についての4つの項目が挙げられた。

活動については、園田の方で情報収集に力を入れているのはとてもいいという意見が出た一方で、そうしたことは今までに情報を蓄積し、既に知っている状況であって欲しいという意見もあった。

プレゼンについて、資料で文字を見ているのでエモーショナルな感じがしないのと、例えば写真等を使用しビジュアルで伝えるようなプレゼンを行う等、プレゼンをしたことで他地域にも影響が出るようなものが必要。また、資料に落とし込む作業が大変なように思え、かなり負担になっているのではないかと思う。型に落とし込むのではなく、何が課題で何が出来ているのか等が分かるメリハリのあるプレゼンテーションが出来ればよいと思った。

キーパーソンについて、色々な地域の方と交流していると聞いたが、従来の地域の役員であるのか、それとも新しい人であるのか等、具体的にどのような地域の方であるか疑問に思った。何かについて集まって議論するワークショップを開くことで参加者の人となりが見えるので、1つの方法として有効である。

体制について、仕事が多く大変であり、実際にどのような役割分担で仕事が行われているのか、誰が主体となって事業等の企画を行っているのか、組織がどうなっているのか疑問に思った。

○委員（補足）

組織について、どういう状態や体制で動いているのかが委員と共有出来ていない。1人の職員が様々なことを行っているのか、それとも組織内で役割分担が行われているのか、他の地域も含め事業等の理解が深まるので基本的な情報を教えていただきたい。

○委員（テーブル代表）

立花と園田の違いがある。立花は学校・学生など多世代とのつながりを作ったり、多様性の部分を念頭に入れており、市民からのアイデアを実現させているように感じる。どちらの地域もプラットフォームという言葉が出ているが、行政側だけに情報が集まるのではなく市民がそれらを活用できるような、市民側にメリットが見えるような取組になっているのかと疑問に思った。また、プラットフォームの活性化がどのようなものであるのか疑問に思った。どれぐらいの人に対してどのように波及するイメージで動いているのか、目標である数字が見えないので分かりにくい。つながった人数や範囲がどれぐらいの人数をカバーできる団体であったのか、キーパーソンが社協の中にいた場合、社協のつながりにないキーパーソンにどうアプローチするのかが次の課題であると思った。またデータベース化

された地域カルテが市民から見える状態なのか、カルテに対し市民が意見できるものなのか、それが出来ればもっと色々な意見が出てくるのではと思った。

◆立花地域課長

プラットフォームのイメージは、市民の悩みや想いについて話が出来る形にできればいいと思っている。行政として施策を進めるために話し合うよりも、応援してくれる仲間を見つけ、行政もそこに加わり話が出来る場になればいいと思っている。波及具合の数字の部分については、行った場所やあった人などについては部分的に数字を残しているがすべての補足は出来ていないので、今後データとして残していけるような工夫はしていきたい。他地区で既に実施している事例があるので参考にしたい。

◆園田地域課長

ママカフェが弱いのではないかという指摘について、昨年度は市が一方通行でやっていた。ウェルカムパーティー事業の趣旨としては、活動につなげていくことが一番の目的であるはずだが、来ていただいた際に母親同士の横のつながりを作ることが出来ていないのが現状であり、ウェルカムブックを使用し、地域活動に参加するきっかけづくりをしていければと思っており、今後は趣旨を明確にして事業を展開していきたいと思っている。またキーパーソンについては、連協の会長だけでなく、社協の方からいただいたデータを元に30名強の方々にインタビューをしている。今は進行途中の段階であるので、今後色々な方の話を聞きながらつながりを広げていければいいと思っている。地域カルテについては、元々行政が持っていた情報と、キーパーソンの方30名ほどにインタビューしながら作っており、今後色々な人に見てもらいながらバージョンアップしていきたい。

◆生涯、学習！推進課長（事務局）

プレゼンテーションについて、資料を作ることに負担があるのではないかという意見があったが、内部でも同様の意見はあった中、自分たちの動きや取組が資料のような流れに沿って進んでいるかということ意識することにもつながり、職員の動き方のトレーニングの1つになるという想いもある。審議会ではダイジェスト的に説明する形をとっているが、本来はもっと時間をかけてじっくりお伝えするのが望ましいと思っている。今年度から取り組んでいるということもあるので、今後実績を蓄積させながら改善していきたい。そういったことについて、この審議会の場で議論の進め方についての意見もいただければありがたい。

○委員

地域や活動についての課題が多いように思えるが、園田地区については、資料1の「課題」の中に「地域との顔の見える関係づくりに取り組んできているが、現在も地域担当職員とは何か、何ができるのか、理解を得ているとは言い難い」と記載しているが、それを課題としてとらえていることがこれからの地域課の発展の基本であると思った。

3 中央地域課、小田地域課及び大庄地域課の取組（審議）

中央地域課・小田地域課・大庄地域課から「令和元年度中央地域課の取組」及び「令和元年度小田地域課の取組」及び「令和元年度大庄地域課の取組」について説明を行った。

説明終了後、各テーブル内で意見や質問等について話し合い、各テーブルの代表者からの発言等があった。

○委員（テーブル代表）

中央地域課において上・下半期毎に目標を立てているが、これが基礎であると思った。行政には人事異動があるが地域には無いため、誰と話をしても伝わるようにしているということはどの地域にも通じるものがあると思った。地域から意見が少ないということであるが、ひとつのイベント参加人数で1,500人というものもあるので、地域の窓口という形にはなっているように思えるがこれをどう分析しているのか聞きたい。尼信や商工会議所も上手に利用し関係づくりが出来ていると思った。小田地域課については、私が小田地域で活動している中でも聞くのだが、PTAや小学校の会議等で地域担当職員がどの会議にも顔を出しており、職員の顔出しができて印象がある。相談したいことを言える関係づくりが出来ていると思う。大庄地区については、社協の加入率が高いのをどう活用されているのかや、跡地の活用についての方法や仕掛けをどのようにしていくのかについて、話を聞く中でわくわくするものが無いように感じた。既に出来上がっている連協等の役員だけでなく、様々な役員を入れて意見交換できる場になれば、活用の方法について話が広がると思う。

○委員（補足）

中央地域課の資料の⑩と⑬について、⑩で災害対策課が自主防災会会長と打ち合わせする際に地域担当職員が同席したと記載して、⑬ではみんなで地域の共通課題について考えていくプラットフォームの設置とあるので、⑩と⑬を一緒に開催すればよかったと思った。また、意見の言いにくい障がい者や高齢者も交えて話し合いを行ってもらいたかった。

○委員（テーブル代表）

全体としてはバランスよく取り組んでおられるように思えるが、目玉的な施策が見えにくいと思う。地域性もあるが、どんなことを巻きこめて取り組んでいけるのかを考えていけばいい。防災等のセーフティーネット的な取組やマイナスをなくす取組を広げるのもいいのではないか。それぞれの地区について、中央は本庁に近いという地域性があるので一概には言えない。小田は、過去にプラットフォームがあったため、既につながりが出来ているのでそれを復活させてつながりづくりを進めてほしい。大庄は、社協の加入率が高いということもあり、連協を中心に活動を行っているので他の人が入りにくい状況にあるが、新しく活動されている人を巻き込む必要もあり、そういった意味で今が大事な時期である。中央での個別に取り組んだ事例について、他の部署に取りつなぎ結果を出していることについて、行政の職員だから出来る取組であり、良いと思った。質問で、大庄地域課の令和元年度の取組の資料の中で、「地域と行政の支援の仕方について課題があり」や、「学

びと地域活動の循環につながる活動団体に対して、支援内容や関わり方を見極めていく必要がある。」とあるが、どのような課題があるのか詳しく聞かせていただきたい。

◆大庄地域課長

社協の加入率に関連して、大庄地区では社協を中心に活動が行われていることが多いというのが現状であり、森の文化祭やまつりなどを行う際、地域課は事務局として関わっているが、社協の高齢化を踏まえるとともに、地域振興体制の再構築ということもあるので、今後は単に現状について関わってだけでなく、10年20年後の地域の状況を見据えた中で市として取り組まなければいけないことを見極めた上で関わっていかねばならないということがある。また、「ことはじめかいぎ」や「大庄つどい場会議」といった新しい地域活動団体が行う特色ある会議にも積極的に参加して、地域予算の活用も視野に入れながら活動がスムーズに進むような支援を行っていかねばならない。職員の取組の方向性として、既存の社協については関わり方を少しずつ変えながらも引き続き支援を行い、新しい取組への支援についても先を見据えた上で力を入れた取組を行いたいという想いである。

○委員（補足）

プラットホームの交流作りについて、以前小田地域のラウンドテーブル井戸端会議に数年間参加したが、1か月に2時間参加するだけで、キーパーソンが見え地域の状況がよく分かった。例えば杭瀬小学校はPTAが元気であることや、小田高校がクラブ活動として地域貢献を行っていること、喜楽苑では地域高齢者の見守りを更に進めていこうとしていること等が分かり、地域の関係が見え、関係づくりが出来た。他地区でも月1回の地域の集まりを作ることで効率よく地域の状況が見えてきたりする。

○委員（テーブル代表）

中央は、プラザの愛称をつけてアピールすることについて今年度の上半期のアピールが大きかったように思う。梅プラザまつりでは沢山の方が参加していてよかったが、逆に地域に出向く際にはただ参加するだけでなく、どういう関わり方をして参加するかが大切であり、どの程度地域と信頼できる関係づくりが出来ているのか疑問に思った。フェイスブックやインスタは若い世代に向けたアプローチとしていいと思う。また、防災をテーマに考えることが重要で、火をつけてみることや防災弁当を作るなど楽しみながら取り組めるものが出来ればいい。小田地域は、企業を意識しながら取り組むのは特徴的でいいと思った。ただ、企業と地域が考えるそれぞれの地域課題が合致すればいいが、実際はどうであるのか疑問に思った。大庄地域は、社協の加入率が高く情報伝達も出来ているので、かつては活気があったが、高齢化ということもあり今はあまり感じられないように感じる。また、『(仮称)「未来へつなぐ」大庄地域』の冊子作製について、市民委員のようなものを加えているのか知りたい。

○委員（補足）

大庄地区について、以前個人的に関わりがあったが、その際によく人生相談をさせていただいた。現在高齢化が進み、プラットフォームが無く、課題を抱えている集団に対してどうアプローチをするのが切実な課題となっている。だからこそ、中央地区のようなプラットフォームを展開し、大庄地区の外の団体を取り入れ、尼崎全体の地域課題として展開できれば新しいきっかけとなる。宝塚医療大学の尼崎キャンパスにアプローチすれば新しいきっかけづくりが出来る。また、高齢者は知恵と経験や経験を踏まえた体力をもっている、うまく巻き込むことで短期的に見れば可能性のある地域だと思う。

◆中央地域課長

地域からの意見が少ないことについて、本庁が近いことと、もう一点は職員の異動等がある中で地域と十分な関係がまだ作れていないことが理由にあると思う。また、プラザのアピールは出来ているが地域に出向いているのかのご指摘については、上半期は地域との関係づくりに重きを置いており、色々な所に出向き、例えば100歳体操の後にご飯に誘ってもらって、さらに地域イベントに誘っていただくなどが今の関係づくりの段階であると思っている。地域課ですべての地域の行事を把握できている訳ではないので、地域の方と親しい関係等をつくり、地域の方からも情報が得られる関係を作ることに注力したい。防災関係のプラットフォームについて、⑩の台風の時期に時間がなかったということもあったので、情報伝達網をどうしていくのかという議論の中に入り、地域の状況がどのようなものであるか理解する準備過程であったと理解している。⑬のプラットフォームについては、色々な意見がある中で、社会的弱者の方も勉強できるような取組も含め、今後どのようなものを構築していくべきかを考える時期であるので、ご指摘いただきましたような意見も踏まえながら今後検討していきたい。

◆小田地域課長

まだまだ職員は顔を出しているというのが現状で、覚えていただいてからが仕事であるという意識で取り組んでいる。プラットフォームについても、顔を出すことで地域の人となりが見えてくるように取り組んでいる。企業へのアプローチについては、地域の課題に直接関わっていただいているのでは無く、地域で活躍し、地域のことを好きになってもらうことを意識して取り組んでいる。地域で顔が見え、関係づくりが出来てくることで地域の課題解決に携わるようなアプローチを今後展開できればと考えている。今は企業の方に小田地域のことを好きになってもらう段階であると認識している。

◆大庄地域課長

大庄地域は今が大事である・チャンスであるといった意見をいただいたが、資料の⑨にも記載をしているように、現在地域の参画づくりが出来る場づくりについて検討しており、どのような形がいいか決まり次第報告する予定である。地域の多様な意見を踏まえる中で、多様な主体の参画が出来ることが大切であると思っている。冊子については、地域のシビックプライドの醸成を図る上で、歴史や文化が分かるようなものにするよう取組んでおり、素案的なものは出来つつある。最終的には、場の仕組みづくりの観点も合わせ、

市の外部の意見を取り入れていけるような形をとればと思っている。

4 講座等の実施状況（中央・大庄・小田・立花・園田）（審議）

事務局から「中央地域課講座等の実施状況」「小田地域課講座等の実施状況」「大庄地域課講座等の実施状況」「立花地域課講座等の実施状況」「園田地域課講座等の実施状況」について説明を行った。

説明終了後、各テーブル内で意見や質問等について話し合い、各テーブルの代表者からの発言等があった。

○委員（テーブル代表）

新たな受講者を獲得するための工夫について、全地域で同じような事業が並んでいる状況ではなく、地域に合わせた事業展開が大切である。公民館と地域振興センターが合体した中で、以前と同じように踏襲することは無駄なことであり、融合させる中で地域の特性を見出していければいい。また、災害と人権について、他都市で災害時にホームレスを受け入れないという事例があったが、人権を考える中で1つの視点として考えるのもおもしろい。大庄について資料内での記載がないが、改善点が無く現状のままでいいのか、それとも今後考えていくものであるのか教えていただきたい。

○委員（テーブル代表）

尼崎市が自治のまちづくり条例を定め、シティズンシップを浸透させるため生涯学習プラザに変換をしているが、社会教育士の立場があまり見えてこない。また、学びと活動の循環が見えるよう、今後学んだ人を追いかけてほしい。学んだことを社会活動につなげるよう背中を押してあげてほしい。また、職員の仕事量として、公民館の活動や地域課題の解決を行うことはかなり負担なのではないか。前回も出た意見だが、成果を図る指標が講座数や人数に偏っているのでは違う評価が必要ではないか。社会教育の指針に対して、年度末に振り返るというものもあっていいのではと思った。

○委員（補足）

地域担当職員は本当に大変だと思う。社会教育の専門家であり地域支援の専門家であるため、それだけのことを実際に行えるのかと思う。社会教育士は継続して学んでいかないと新鮮な社会教育の状況を理解し講座の運営を行えないので、相当努力しないといけない。自治のまちづくり条例でシティズンシップの醸成を重要な柱としているが、それが色々なところに散りばめられている。その進捗状況が追いかけれられないので、講座の数と人数だけでは不十分であるので、評価軸について今後委員も含めて考えていけばいいと思う。地域毎に講座があってもいいと思うが、社会全体で必要としている共通テーマがあると思うので、そういったものを審議会も含めて考えて、持っておく必要がある。

○委員（テーブル代表）

市民企画講座に大きな期待を寄せたい。地域担当職員が勉強をしてテーマを作るだけで

なく、市民側がこういう課題について勉強したいということをアピールすることができ、自分にあったテーマで講座を考えることが出来る。どういう内容にすれば学習した者自身が役立つのかについて考えるワークショップを作ることも必要。人権について人数が少ないことについても、どうすれば人権について学びたいと思わせるのかと考えることも大事であり、地域課題を考える上で人権は大切なものになっていくので是非とも残してほしい。市民が学ぶ中で、施設の使い方についてどのように配慮しているか、指定管理者を入れた中で、市民の使い勝手の良し悪しについてどのように把握し理解しようという姿勢があるかというのが課題である。

○委員（補足）

「大庄ことはじめかいぎ」や「まごころ茶屋」のようなものを広報する際に、市民の方々の目に付くようなデザイン性を考える際に、市役所の職員で考えるのは限界があると思うので、プロの方や地域で出来る方の掘り起こしなどを行い、デザインの見せ方について改善していく必要がある。

以 上